

AJU



ラルシュかなの家便り



AJU

ラルシュかなの家便り

No.289

2021 夏号

2021/06/15



めぐみの活動で
作っている写真立て
(額縁アート)



発行：社会福祉法人 ラルシュかなの家

〒421-2114 静岡市葵区安倍口新田65-5

TEL : 054-206-0830 FAX : 054-294-8070

E-mail : larchekana@s9.dion.ne.jp HP : <https://larchejapankana.localinfo.jp/>

ブログ : larchekananoie.blog.fc2.com

振り込み口座: 00820-4-153325 ラルシュかなの家 (ご寄付用の振込)

かなの家の畠



GWの前後から、畠と田んぼが忙しくなってきます。畠は、キュウリ、インゲン豆、オクラ、枝豆、落花生の苗作りは、海野さんが苗用ポットに土を入れて水をやり、中村さんと柴田さんが種植えをしていきます。またそれらを植える畝（うね）という溝を掘って堆肥と肥料を入れ、土を盛り上げる仕事は、青野さん、石割さん、佐藤秀明さんが作っていき。ナス、トマト、インゲン豆、へちまの支柱をアシスタントが作って、買ってきたナス、トマトの苗を植えていき、次に種から育てた苗を次から次へと植えていきます。その前にも畠に直植えの人参、パクチーなど植え、芽が出てきたら、間引きを行います。毎年みんな昼食に出るのを楽しみにしているスイカも苗を買ってきて植えます。

その間にも、ジャガイモの収穫があり。今年は梅雨入りが早く、雨の合間にみんなで泥だらけになって収穫しました。苦労して収穫したジャガイモは特別な味でした。新じゃがは本当に美味しいです。

それらと同時に米の準備も行います。GW明けから苗を育てたり、田んぼを耕運機で、石灰を撒いたり、肥料を撒いたりして何度も耕します。苗は、毎日休み無く水やりを1日に2度3度とやらなければならないので大変です。今年は「キヌヒカリ」という、寿司米として人気のある、さっぱりとした食べ味のお米なので収穫が今から楽しみです。

ゆたか



表現力



“本多大先生”こと本多真大（ほんだ まさひろ）さん、太鼓を打ったり、手拍子したり、たくさんの歌を知っていて、一人やみんなで歌ったり、音楽活動で生き生きとした姿を見せてくれます。他にも様々な場面で、本多さんらしさを“表現”して活動に取り組んでいます。

本多さんが取り組んでいる活動の一つに、めぐみ（生活介護・本多さんの所属グループ）のアート活動があります。その時間の中で、金属製の手回しろくろ（陶芸用）を台座にして、その上に磁石等を積み上げたり、並べたり、黙々と、時に話をしたり歌ったりしながら、作品をつくり上げていきます。ここに掲載した作品は、ほんの一部ですが、本多さんの持つ無限の“表現力”によって作り出される作品の魅力が皆さんに伝えられたらと思います。

湯浅 隆昌
(ゆあさ たかまさ)



本多 真大 (ほんだ まさひろ)

賜物発見 No.2



お茶会

ラルシユかなの家

ラルシユかなの家でお茶会を始めて2年目となりました。お茶会がはじまった理由は、毎年行っていた洗足式をコロナウイルスの影響でできなくなってしまったからです。お互いに必要な存在であることを思い出す洗足式。代わりに何かできないかと話し合い、出てきたアイデアがお茶会でした。以前、かなの家茶道部が、お客様のベルギー家族をお茶会に招いたとき、お母さんのアルメルが「お茶会は洗足式みたいだ」と言ってくれた言葉がヒントとなりました。

ラルシユの価値観と 日本文化の出会いです。

お茶会を開くきっかけとなった「かなの家茶道部」には茶道の道具があるのですが、これは野村さんと横井さんの茶道の師匠である高塚先生からいただいたものです。

13年前、横井さんがかなの家でアシスタントになったのですが挫折を味わいます。その時、野村さんが横井さんに「あなたは価値のある人だ」と伝え、横井さんは救われました。

そして、12年前、横井さんが茶道を学び始めたのですが、一緒に野村さんも通うことになりました。当時の野村さんはグループホームの人間関係に疲れ、外での気分転換が必要だったからです。

持ちつ持たれつなこの二人を迎えてくれた高塚先生は、「お茶とは身分や役割を超える出会いの場」であることを教えてくれました。

のちに、この二人はアトランタで行われたラルシユ総会に参加し、かなの家の代表として総会のお祝いを盛り上げました。

このように野村さん、横井さんの相互関係からお茶の学びが始まり、かなの家茶道部が設立され「かなの家お茶会」にいたします。かなの家の移ろいゆく物語のひとつです。

小グループで輪になり、隣の人にお茶を点てるかなの家お茶会。私たちは独立した存在ではなく、お互いにつながっていることをゆっくりと味わう一期一会となりました。

言



柴田 しばた ゆうき 有紀



柴田さん

「弾いていて楽しいし、かっこいいし、ベースの音が好き。」

「ベース持ってる感じがさ、自分でもかっこいいと思う。」

「春のお祝いのときさ、晴さんや海野さんに上手になったねって言ってもらえて嬉しかった。

だからもっとやりたいって思った。」

ぱぴよん

柴田さんは、去年の9月頃からベースを始めて、それからほぼ毎日、昼休みと帰りに練習を重ね、周りの仲間やアシスタントが驚くほど上手になっています。柴田さんのベースへの思いは熱く、私もそれに答えられるようにベースの面白さ、音を合わせることの快感や喜びを伝えていきたいです。

最近はロックバンド、ゆらゆら帝国の「夜行性の生き物三匹」と言う曲が好きで、サイン式でも演奏しました。

下のQRコードから、かっこいい柴田さんのベースを見ることができます。



かなの家の小さな思い出

平石 祐哉

2016年1月から、かなの家で5年半ほど勤務し、今年の5月の初めに出身地の横浜に戻りました。

かなの家を去るとき、ハルさんから「この5年半の生活の中で何が特に印象に残っていますか」という意味のことを見かれました。その時、丹沢や山中湖でのリトリート、仁さんとフランスのラルシュの研修に参加して一緒に踊ったこと、青野さんと一緒に行った鎌倉の栄光学園での授業などが印象に残っている、と答えました。私はかなの家で様々なイベントを体験しました。それらのイベントは確かに私の胸に残っています。

しかし、横浜に戻った後、むしろかなの家の生活の中の小さなことが印象深く思い出されることに気が付きました。伊藤さんの水道で手を洗い続けるときの音、大介さんの「おいしー」という声、江川さんの手をマイクのようにして歌う仕草、野村さんのクスグリ、戸田さんが夕食で使う韓国箸、みかさんの真っすぐな眼差し、藤田さんが語るお兄さんの情報、柴田さんが語る甥っ子さんへの愛、ゆきさんのおばあちゃんの話……………といった日常の何気ない一コマが自身の頭の中に蘇ってきました。

海外のラルシュに行ったりリトリートやお祭りに参加したり

という非日常の出来事は大事なものでした。でも同時に、

日常の中の平凡な思い出が今は懐かしく感じられます。

幸子さんはいつも小さなピースを組み合わせてパズルをつくっています。私のかなの家の生活も、無数の小さなピースによって形作られていたように思います。

日常の中の小さなことの大切さを、かなの家のなかまは私に教えてくれました。これからも、私の心の中の重要な場所をかなの家は占め続けると思います。



〈ご支援のお願い〉

日頃よりラルシュ・かなの家への温かい思いをありがとうございます。

昨年から続くコロナ禍で、私たちの生活も一変し、お祝いや行事がない日常が当たり前になっています。そんな中ではありますが、4月には春のお祝いを行いました。春の日差しのもと、野外で様々な集まりを持ちました。長い間かなの家でアシスタントとして関わってくださった林健二さんと、2016年からすまい・事務などで働いてくださった平石祐哉さんの感謝の会をこの機会に持つことが出来ました。

一方で、現在のかなの家には課題がたくさん横たわっています。その中の一つが、車両の老朽化です。

現在生活介護「めぐみ」の活動で10人乗りの車（キャラバン）などを使う機会が多くなって来ています。

すまいでも軽自動車（ekワゴン）を使用していますが、2台とも走行距離が14万キロを超える最近はバッテリーの不良なども目立つようになってきました。人手も足りない中、公園へ行くのにも車両を使う機会が増している、という現状があります。

車の購入・維持などにはかなりのお金が必要になります。車両関係へのご支援は法人本部とお書きくださいで幸いです。

いつもお願いばかりで本当に恐縮ですが、ご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

【会計報告】

2020年度寄附収入 5,186,561円 (2020年4月1日～2021年3月31日)

2021年度寄附収入 724,000円 (2021年4月1日～2021年6月2日現在)

(お願い)この「かなの家便り」に付いている払込票は、石けん代金振込み用には使用する事が出来ません。石けんご注文の際に、代金振込み用の払込票をお付けしますので、そちらをお使い頂ければ幸いです。※皆様からお寄せいただくご寄付等は、税法上寄付控除の対象となります。

2020年11月17日からご寄付下さった方・献品して下さった方

(2020年11月17日～2021年6月2日現在。敬称を略させていただきました)

(個人の方)AKOちゃん、江川康輝、長谷部和夫、岩城文子・雅次、飛田常司、増澤須美子、岡橋慶治、押野忍、大幡由紀子、小林敏好、高井紀栄、生子典男、佐藤裕一、平栗彰・メラニー、武井陽一、藤三枝子、西川哲彌、武岡憲子、浅野一恵、古戸義雄、酒井多恵、内海眞、竹原創一、中富文雄、阿部泰久、松岡啓貴、石神衣子、磯部雅子、岡本みどり、桜木陽子、山森マリ、石橋治朗、森川信子、増田とき枝、鈴木あき子、斎藤斉、大井靖子、御牧由子、伊藤海子、小島敏夫、中島教子、梁熙梅、神澤光江、横谷智子、河野悦子、水野成人・朴亜紀子、ジェフリー・メンセンディーク、山屋長英、桂正枝、笠井恵、伊久美麗子、田浦隆、小岩井正子、永岡啓・飾、田野明子、松永修、池村久美子、清水基、英隆一朗、滝口文子、右近和子、清水紀代子、濱本緑・義信、御前ザビエル、榎本信雄、芳賀直哉、小坂一代、田島叔子、堀川絵津子、西本裕、原部佑基、塩田希、石割隆、長岡隆・まゆみ、高倉櫻子、勝本正之、石井智恵美、Constance Purser、森山薰、渡邊美佐緒、田代和夫、服部夕紀、佐々木裕子、武井志津子、飛田常司、北村喜子、鍋田肇、岩崎直美、村本徹也、井川伸子、増井隆文、戸田洋子、黒飛和子、植松功、寺西英夫、内田美知子、R・ディーターズ、三輪直子、高野啓子、高塚幸子、横井範子、水口章子、平野昭子、石原晶世、菅純恵、南八枝子、近藤あい子、寺田淳子、佐々木洋子、植山利彦、川谷すず子、宮本龍子、匿名/16

(団体)浜松聖書集会、ドミニコ会聖ヨゼフ修道院、静岡カトリック教会、カトリック清瀬教会、静岡県教育会館親和会、宗教法人力トリックイエズス会・SJハウス、援助修道会・本部修道院、援助修道会・市谷修道院、カトリック鍛冶ヶ谷教会、静岡雙葉高等学校・中学校、中沢皮膚科、天使の聖母宣教修道女会、カトリック二俣川教会、カトリック菊名教会、カトリック藤枝教会、カトリック小田原教会、カトリック三島教会、カトリック六甲教会、カトリック徳田教会、隠岐教会、静岡雙葉学園、栄光学園愛の運動委員会、エーザイ株式会社知創部、山手カトリック教会福祉委員会

(献品)中村洋子(菓子)松林三樹夫(食品)横井弘忠(食品)三輪直子(食品)片柳弘史(書籍)田辺ヒナ子(菓子)佐藤富美子(食品)水野寿美代(果物)有馬万紀子(菓子)野村誠二(食品)橋本玲子(菓子)島田恵子(菓子)松下信介(菓子)長野浩二(食品)

皆さま、本当にありがとうございました。漏れのある方、匿名希望の方がおられましたら、お手数ですがどうぞご連絡下さいませ。



1個290円 約300g
成分／脂肪酸ナトリウム(純せっけん分)60%
炭酸塩40%
オレンジ精油
性質／弱アルカリ性



ECOブロックせっけん ～プラスチックフリーな台所せっけん～

かなせっけんでは命にやさしいせっけんを目指し、パッケージをプラスチックから紙へと移行を進めています。現在の日本では、食器を洗う石鹼として、液体石鹼が主流となっています。液体の石鹼はどうしても密封性の高い容器が必要になってしまい、プラスチック容器が多く使われている現状があります。そんな中、プラスチック容器を使わない固形の台所石鹼として「ECOブロックせっけん」を紹介したいと思います。

これまで、かなせっけんでは半固形せっけんを台所の固形石鹼として販売していましたが、これを溶けやすく改良し、ほのかにかおるオレンジ精油を加え、新しく「ECOブロックせっけん」として生まれ変わりました。廃食用油をリサイクルして作られた粉せっけんを原料に、汚れを落とした後は自然界の要素に分解され、環境を損なうことなく、命と調和の取れたサイクルを作ります！

水を含ませたスポンジに擦り付け泡立てて使います。

かなの家のなかまたちの真心のこもったせっけんです！みなさまぜひお使いください。



ご注文はこちらまで

社会福祉法人 ラルシュかなの家 かなせっけん発送所

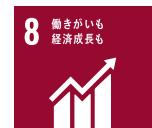
☎054-296-1116

HP <https://larchejapankana.localinfo.jp/>
ONLINE SHOP: kananoie.shop-pro.jp



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

(福) ラルシュかなの家は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



働きがいも
経済成長も



海の豊かさを
守ろう